

# 環境意識の向上・コミュニケーション

Environmental Awareness  
and Communication

URは、全ての職員が環境問題に関心を持ち、環境の大切さを伝える取り組みを行っています。環境課題の解決には社会全体で進めることが重要であるため、関係する皆さまと一緒に考え、行動し、豊かで潤いのある環境と持続可能な社会の実現に向けて取り組みます。



## 職員の環境意識向上



### オフィス部会の開催

URでは省エネ法や「UR-eco Plan 2024」に基づく必要な措置及びその推進について、本社・各本部支社の職員間で議論を行う「オフィス部会」を年1回開催しています。

### 職員の環境意識の啓発活動

セミナーやレポート、社内研修等を通して、職員の環境意識向上を図っています。令和7年度も引き続き外部講師を招き、持続的なまちづくりや脱炭素社会の実現に向けた取り組みについて講演いただきました。

〈都市環境セミナー開催〉

都市環境セミナー

#### 第1回

#### 都市の文化を醸成する庭と園藝

講師 株式会社folk代表 / 一般社団法人シモキタ園藝部  
代表理事 三島 由樹 氏



#### 第2回

#### 住宅・建築分野におけるカーボンニュートラル

講師 スマート社会技術融合研究機構・機構長 / 早稲田大学建築学科  
教授 田辺 新一 氏



#### 第3回

#### グリーンインフラの概念とまちづくり

講師 千葉大学大学院園芸学研究院  
教授 木下 剛 氏



**団**地の建替えにおける「緑とコミュニティの継承の取り組み」の実践例として、武蔵野緑町パークタウン（東京都武蔵野市）において、UR 若手職員を対象とした勉強会を実施しました。



▲現地を見ながらの勉強会の様子

昭和 32 年に建設された当団地は、平成 3 年から 15 年にかけて「人と自然にやさしい屋外空間の創造」を基本コンセプトに掲げて建替え事業が行われました。今回の勉強会では、建設当初からの樹木が残された緑豊かな団地内を歩きながら、団地にお住まいの方々と緑町らしさについて丁寧に対話を繰り返したことや、その結果の一つとして、すれ違う時に会話が生まれるようにあえて道幅を狭く設計したこと等、既存の緑とコミュニティの継承を意識してきた経験を当時の担当者に語ってもらいました。

今後も職員一人ひとりが、団地の豊かな屋外環境と、お住まいの方々の想いを大事にしながら事業を進めていくよう、積極的に勉強会や情報発信を行っていきます。

#### 担当者のひとこと

参加者からは、「自然に人と人との交流が生まれるような設計が勉強になった」「そこにお住まいの方々の気持ちを理解することの大切さを学んだ」といった意見がありました。



▲適度に狭いため、すれ違う時に会話が生まれる小径

## 業務の効率化による環境負荷の低減

テレワーク勤務制度、始業時刻変更制度等の柔軟な働き方を進めることで業務の効率化を図り、環境負荷の低減にもつなげています。

## 環境にやさしいライフスタイルを支援

地域の方々とともに、自然環境とのふれあいや環境にやさしい暮らしを培い、継承していくことを支援していきます。

### 事例紹介

### 脱炭素のくらしをモニター実証

TAKABANA BASE は令和 6 年度に千葉ニュータウン 高花（千葉県印西市）にオープンした循環型ガーデンです。民間企業と連携し、参加者への資源循環や脱炭素のくらしの提案等の活動を行っています。

その活動の一環として、令和 7 年 9 月から 12 月にかけての間で、脱炭素のくらしに関するモニター実証を実施しました。ペットボトルキャップや古着の回収、古本交換、コンポスト育成、ドライフルーツの量り売りの 5 つの実証

事業を通して、参加者に身近な脱炭素を体感していただき、団地全体の CO<sub>2</sub> 削減量の計測等を実施しました。結果として、参加者 20 人で約 400kg の CO<sub>2</sub> 削減を実現することができました。

また本実証とは別に 12 月には食循環イベントも実施しました。「生ごみ削減のくらし→コンポスト→堆肥→野菜を育てる→クラフトビールを作る→乾杯」という一連の流れを参加型で体感していただきました。

これらの取組みを継続することにより、環境に配慮した暮らしが当たり前になるよう、本実証も踏まえて今後も TAKABANA BASE で活動を継続していきます。



▲食循環イベントにてビールで乾杯する様子

#### 担当者のひとこと

TAKABANA BASEは、「つくる喜び、手触りのある暮らし」をコンセプトにオープンしました。引き続き、事業メッセージ「ゆるやかに、くらしつながる。」にもつながる先駆的なガーデンを目指していきます。

脱炭素モニターに関して、参加者からは、身近な取組みだからこそ気軽に続けやすいと感想をいただきました。本実証をきっかけに、皆さまの行動変容につながったと実感しています。



▲脱炭素の実証のチラシ



▲古本を交換する様子



▲コンポスト講座の様子

**D**ANCHI つながる一む～夏休みは団地で楽しもう!～は、令和5年度から行っている取組みで、夏休み期間に、団地の集会所等を団地居住者や周辺地域に開放し、ワークショップや工作教室等の家庭での体験が難しい学び・遊びの機会の提供や、自習室として開放し、こどもの居場所の提供等を行っています。近年、共働き世帯が増える中、夏休み等の長期休暇における日中のこどもの居場所について、悩んでいる保護者が多い現状があります。こうした課題解決の一助となるべく、こどもの居場所提供、共働き世帯等親の子育て負担の軽減、クールシェアの省エネ効果を通じた環境意識向上、家庭の光熱費削減支援等を目的として、この取組みが始まりました。

集会所をただ開放するだけでなく、団地や団地周辺で活動している企業や地域関係者の方々に協力いただきながら、様々な講座等を企画し、地域で連携して、元気に遊び、学び、体験できるこどもの居場所づくりに取り組んでいます。

兵庫エリア経営部では、令和7年度の取組みとして、阪神・淡路大震災30年を機とした防災コンテンツの実施や、地域団体と連携したこども食堂への支援等を実施しました。

また、UR団地の居住者だけでなく、近隣地域の居住者も多く参加しており、団地の集会所等が地域の新たな交流拠点として機能しています。参加した保護者からは、この取組みの目的である「こどもの居場所づくり」や「クールシェア」の観点が高く評価されており、こどもたちからも「楽しかった」、「来年もぜひやって欲しい」との声が寄せられ、各家庭におけるCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献する他、団地の新たな魅力の創出につながっています。

#### 担当者のひとこと

この取組みは、夏休み期間中のこどもたちの居場所を提供するとともに、クールシェアを通じて冷房使用の抑制と住民同士の自然な交流を促す場を創出しています。涼みに来ることをきっかけに、住民同士の顔の見える関係を育み、日常的なつながりを通じて安心して暮らせる地域を目指しています。今後は防災や食育等、地域に根差したコンテンツを充実させ、団地を中心とした人のつながりをさらに広げていきたいと考えています。



▲工作教室で木のポーチ作り (武庫川)



▲イモリのふれあい体験 (浜甲子園なぎさ街)

## UR賃貸住宅にお住まいの方への環境負荷低減に向けた呼びかけ

バルコニーでの緑のカーテンづくりを支援する等、環境配慮の呼びかけを行っています。令和7年度は、栽培キットや苗を156団地、5,066戸の住宅へ配布・提供しました。

## 地域やお住まいの方とのコミュニケーション

UR賃貸住宅や地域にお住まいの皆さまと一緒に、ワークショップやイベント開催等を通してコミュニケーションを図り、環境配慮に向けた連携を進めています。

**東** 京湾から印旛沼をつなぐ花見川・新川流域一帯において、四季を感じる魅力的な取組みを発信していくブランディング活動「千葉うみさとライン（通称：うみさと）」プロジェクトが展開されており、令和6年4月1日に官民連携による協議会が設立されました。

本プロジェクトでは、千葉市・佐倉市・八千代市の3市に跨る花見川・新川流域一帯を「自然と暮らしが融合する大きな遊び場」と見立て、民間企業、行政、市民が一体となって情報発信やコンテンツづくり等に取り組んでいます。URは当該流域に花見川団地（千葉県千葉市）等7

団地を有していることから本プロジェクトに参画し、様々な表情の自然に触れることができる「うみさと」ならではのライフスタイルの創造・発信を目指しています。

令和7年5月24日には、うみさとエリア内の花見川団地を含む4か所の拠点（千葉市・佐倉市・八千代市・花見川団地）において、協議会による初の主催イベントが開催されました。サイクリングやSNSを活用して各拠点を周遊することで、様々な表情の自然を体感できるイベントとなりました。

令和8年4月より印西市も加わり4市に跨るプロジェクトとなることから、さらにうみさとエリアの魅力・認知度の向上を目指して活動するとともに、団地の屋外環境だけでなく、地域全体の自然を身近なものとして感じてもらえるように取り組んでいます。

#### 担当者のひとこと

より多くの人に花見川・新川流域一帯の豊かな自然やそれらを活かしたアクティビティを体感してもらえるように、魅力醸成・認知度向上に取り組んでいます。地域資源を活用した住戸企画や屋外整備を通して「うみさと」らしいライフスタイルの提案を行いたいと考えています。



▲カヤック体験風景



▲サップ体験風景



▲サイクルツアー風景



▲サイクルツアーゴール地点風景

**U** MESHIBA BASE by URは、URが専門学校の施設を購入、暫定利用施設としてリニューアルして令和2年度にオープンしました。JR大阪駅・各線梅田駅からアクセス至便の都市立地を活かし、芝田エリアの未来を

創造する様々なチャレンジを応援し、まちに新たなにぎわいと人のつながりをつくりだす拠点として運営しています。

屋上では都市型菜園に取り組んでおり、また外壁面ではホップを栽培し、それを用いて「うめしばビール」を醸造

することで、地域コンテンツとして活用しています。収穫の際はワークショップを開催し、地域の人々に調理・活用方を共有し、まちなか緑化への意識向上と地域コミュニティの醸成に取り組んでいます。



▲野菜収穫ワークショップの様子

「みどり」と「イノベーション」の関係にも着目し、大阪駅前にオープンしたうめきた公園の豊かな緑を周辺エリアに波及させ、まちづくりを通じて緑の価値や効果を広く発信していきます。

#### 担当者のひとこと

都市型菜園やホップ栽培といった「緑化」を、地域コミュニティの形成やコンテンツ化につなげるため、運営方法やワークショップの企画に取り組みました。

屋上菜園やホップ収穫イベントには地域の方々が積極的に参加し、学生が「うめしばビール」のラベル制作を担う等、「緑を通じたつながり」の広がりを実感しています。UMESHIBA BASEは芝田エリアの未来を創造する拠点となり、うめきた公園の豊かな緑を周辺へ波及させ、都市の中心から緑の価値を発信していきたいと考えます。

#### 事例紹介

### OKUMA お花プロジェクト

令和4年9月より、福島県双葉郡大熊町では月に1回の頻度で、町民の皆さまとともに地域にお花を植える活動「OKUMA お花プロジェクト」を行っています（URは事務局を担当）。この活動は、町民の「原発被災地である大熊町をお花でいっぱいになりたい」という想いのもと、KUMA・PRE（URが設置した地域活動拠点）の敷地内から始まりました。令和6年12月のKUMA・PRE閉館後は、町内事業者（FUN EAT MAKERS in Okuma）の敷地や移住希望者が宿泊する「お試し住宅」の敷地を借りて活動しており、月1回の活動の他、地域のイベントへ出店し、押し花を使ったしおり作りワークショップ等も行っています。これらの活動は、町内にお花を増やすだけでなく、移住者が地域に関わるきっかけになっており、地域住民のコミュニティのひとつとして機能しています。

今後も町の皆さまが活動を継続し、さらには活動エリアを拡大できるよう、ともに活動を行っていきます。



▲お花を植える活動の様子



▲こどもから大人まで参加する定期作業会の様子

#### 担当者のひとこと

「OKUMA お花プロジェクト」には大人だけでなくこどもも参加しており、終始和やかな雰囲気で行っています。誰でも寛容に受け入れ前向きに活動するスタンスは、これまでKUMA・PREを通じてURが地域に示してきた方向性とも重なり、その考え方が着実に地域に根付いていることを実感しています。

令和7年度に入り、KUMA・PREの閉館に合わせ「KUMA・PRE お花プロジェクト」を「OKUMA お花プロジェクト」に名称を改め、活動を継続しています。現在の活動拠点については、地域の事業者のご厚意により無償でご提供いただいております。これまでの活動で培われてきた信頼や、本プロジェクトへの期待の大きさを感じています。

**東** 日本賃貸住宅本部・東日本都市再生本部の有志職員からなる「ABC-Project」では、団地内の自然環境の維持・魅力増進や自然を通じたコミュニティ醸成を目的として、「団地内ビオトープ」の活用促進に向けて活動しています。

その活動の第一弾として、令和7年11月、自然豊かな町田山崎団地（東京都町田市）で団地内の自然を認知してもらうため、「植物ビンゴ」を開催しました。団地内の樹木を探し、樹名板に吊るされたシールをビンゴカードの該当箇所に貼るというものです。参加者は団地内を探検しながら樹木の名前や形を観察し、楽しみながら学ぶことができました。

今後は「ビオトープや生態系の理解を深めてもらう」「ビ

オトープづくりに携わってもらう」ためのイベントを行い、段階的に団地内ビオトープの魅力・認知度向上につなげていきます。

担当者のひとこと

本イベントは「団地の豊かな緑環境を活かして、こどもたちの学習・交流の場をつくりたい」という職員自らの思いから企画が始まりました。当日は爽やかな秋晴れの中、こどもたちが駆け回りながら植物を探してビンゴを目指す姿が印象的でした。遊びを通じて植物の名前を覚える等、ビオトープの魅力を感じてもらえる機会となりました。今後も豊かな団地内緑環境を活かしてお住まいの皆さまの暮らしを彩る企画を届けていきたいと考えています。



▲色めく町田山崎の植物たち



▲ビンゴをする参加者

**令** 和7年7月、洋光台北団地（神奈川県横浜市）に整備された「団地の散歩道」、周辺の公園や遊べるスポット、季節が感じられる場所等をまとめた「洋光

台お散歩マップ」を横浜市と協働で作成しました。

団地全体をつなぐ「団地の散歩道」では、休憩できるベンチや遊べるプレイロット、雨水の流出抑制効果のある

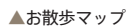


▲散歩道①



▲散歩道②

「洋光台お散歩マップ」は地域のコミュニティ拠点や区役所、地域ケアプラザ等に配布しており、当初印刷分

[illegible]

©写真 太田拓実

## 環境意識の向上・コミュニケーション

## 地域の有志による景観づくり・コミュニティ形成の活動支援

UR は、地域の方々の主体的な活動を支援し、コミュニティ形成や地域の活性化を通して環境にやさしいまちなみをつくります。

### 事例紹介

#### UR 職員有志による地域向けイベントの実施

**本**社が所在する神奈川県横浜市の北仲通南地区において、職員の有志が「Open Kitanaka-minami Project（通称：OKP）」として、日常の清掃活動も含め、エリア価値向上の検討・実践のために様々な活動をしています。

OKP では、横浜市役所を始めとした周辺の関係者と連携して、地域の方向けのイベントを、令和 7 年 5 月 17 日・18 日と 10 月 18 日・19 日の計 2 回実施しました。イベント当日に使用する電力はビルオーナー様にご協力を頂き、グリーン電力を使用しました。

また 5 月に実施したイベントにおいては、長野県小諸市及び石川県輪島市の協力を得て、UR がまちづくりを支援している地方公共団体の PR 活動を行いました。

さらに、10 月期のイベントにおいては、普段とは異なる視点でまちに触れ、自ら自然環境やまちへの興味関心を

高めるきっかけづくりとして、「まちにある食べられる植物」を探すフィールドワークを開催し、この中で、食べられる植物を加工したお茶やお菓子を参加者が飲食するワークショップを行いました。

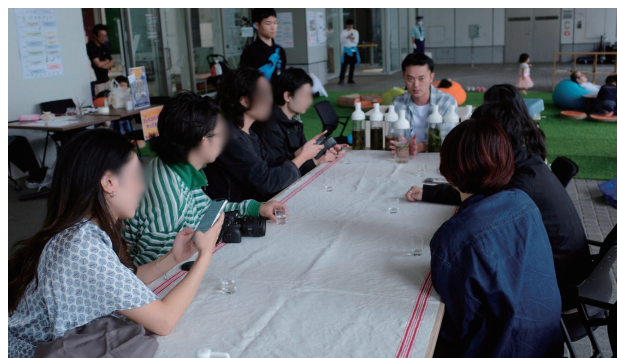
今後もエリアへの来訪者や近隣の皆さまが UR やまちに親しみを持っていただけるような活動を進めるとともに、まちの環境維持に貢献していきます。

#### 担当者のひとこと

10 月期に実施したフィールドワーク・ワークショップの参加者からは、「まちの草木の魅力を知ったことで、これまで何気なく通り過ぎていた植栽や街路樹の見方や意識が変わった」という声等が寄せられ、緑に着目することが、人々のまちへの興味や関心を高める一助になることを実感できました。



▲フィールドワークの様子



▲ワークショップの様子



▲ワークショップで提供されたお菓子

## 海外における環境に配慮した都市開発等への貢献

UR が蓄積してきたまちづくりや住まいづくりのノウハウ等を活用し、関係府省、我が国事業者及び関係公的機関との連携を進めることで、我が国の事業者がアジア等の新興国における都市開発等へ参入できるよう促進し、これらの国の政府や関係機関へ働きかけています。

## 循環共生型都市開発等へのニーズに対する支援

我が国事業者等の連携体制構築支援や海外展開にあたっての技術支援、専門家派遣等の人的支援を通して、アジア等の新興国において高まる循環共生型都市開発等へのニーズに対する支援を行っています。

## 民間事業者等との連携

民間事業者等と連携した環境課題解決に資する取組みを実施しています。

事例紹介

### スポーツで育む地域と環境

**令** 和 7 年 9 月 10 日、UR と公益社団法人日本プロサッカーリーグ（以下「Jリーグ」）は、地域の持続的な発展と住民の豊かな暮らしの実現を目指し、地域活性化に関する包括連携協定を締結しました。

本協定は、両者が持つ資源やノウハウを最大限に活用し、スポーツを通じて地域の魅力を高めることを目的とし、住民同士のつながりや地域への愛着・誇りを育む仕組みとともに具現化する新しい共創モデルの第一歩となります。

本協定に基づき、UR と Jリーグは地域活性化に向けた共創活動の第一段階として、サッカースクールと環境学習を組み合わせた地域参加型プログラムを、全国の UR 団

地・都市再生エリア・震災復興エリアで実施しました。

環境学習では、こどもたちが地球環境について主体的に考え、行動するきっかけを提供することを目的に紙芝居形式の環境セミナーを実施しました。紙芝居では、地球温暖化が身近な問題であることに気づいてもらうとともに、CO<sub>2</sub> 排出量削減に向けた身近な行動例（再生可能エネルギーの利用、ごみ削減、移動手段の工夫、リサイクルやマイバッグの活用等）を紹介しました。

本環境セミナーでは、好きなサッカーを通じて温暖化対策に楽しく取り組んでもらうことを目指し、これまで環境について学ぶ機会が少なかったこどもたちにも、身近な関心事の延長として環境問題に触れていただきました。



#### 私たちにできること(例)



▲こどもにもわかりやすい内容の紙芝居

#### 担当者のひとこと

スポーツを通じてこどもたちが主体的に環境に関心を持ち、地域とのつながりを深める機会を創出できました。楽しさと学びを両立した取組みとして、今後も継続・発展させていきたいと考えています。



▲いわきFCとのサッカースクール・環境学習の様子